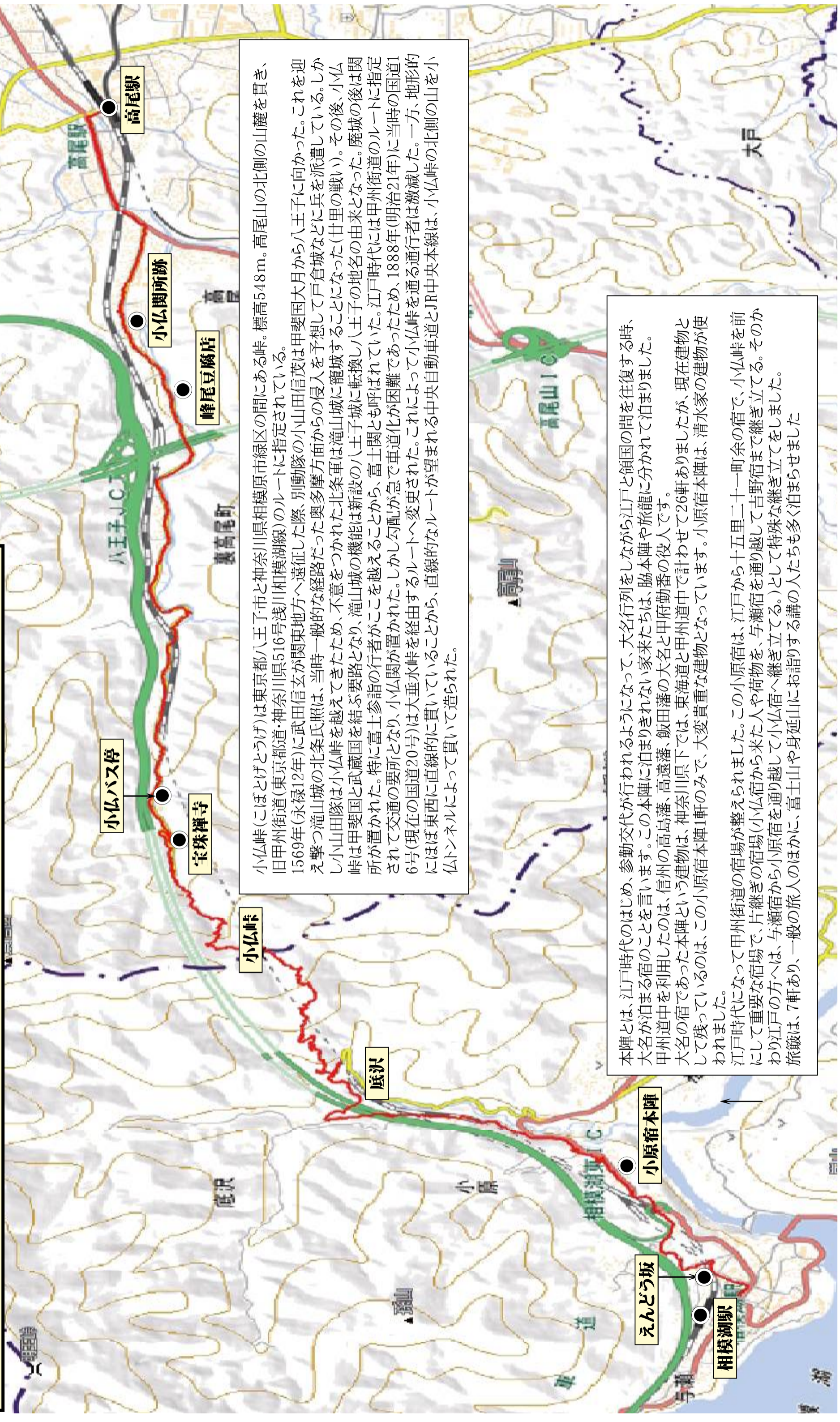


お茶壺道中(甲州街道) 第12回 相模湖駅～高尾駅

- ・開催日 2015年5月18日(月)
- ・コース 相模湖駅～えんどう坂～小原宿(小原宿本陣・小原の郷)～底沢～小仏峠(548m・昼食)～宝珠禅寺(トイレ)～小仏バス停(トイレ)～峰尾豆腐店～小仏関所跡～高尾駅
- ・距離 約15km ・解散 高尾駅 14:45予定 ・担当 田中憲一 阿部哲朗



小仏峠(こぼとげとうげ)は東京都八王子市と神奈川県相模原市緑区の間にある峠。標高548m。高尾山の北側の山麓を貫き、旧甲州街道(東京都道・神奈川県道516号浅川相模湖線)のルートに指定されている。

1569年(永禄12年)に武田信玄が関東地方へ遠征した際、別動隊の小山田信茂は甲斐国大月から八王子に向かった。これを迎え撃つ滝山城の北条氏照は、当時一般的な経路だった奥多摩方面からの侵入を予想して戸倉城などに兵を派遣している。しかし小山田隊は小仏峠を越えてきたため、不意をつかれた北条軍は滝山城に籠城することになった(廿里の戦い)。その後、小仏峠は甲斐国と武蔵国を結ぶ要路となり、滝山城の機能は新設の八王子城に転換し八王子の地名の由来となった。廃城の後は関所が置かれた。特に富士参詣の行者がここを越えることから、富士関とも呼ばれていた。江戸時代には甲州街道のルートに指定されて交通の要所となり、小仏関が置かれた。しかし勾配が急で車道化が困難であったため、1888年(明治21年)に当時の国道16号(現在の国道20号)は大垂水峠を経由するルートへ変更された。これによって小仏峠を通る通行者は激減した。一方、地形的にはほぼ東西に直線的に貫いていることから、直線的なルートが望まれる中央自動車道とJR中央本線は、小仏峠の北側の山を小仏トンネルによって買って買いて造られた。

本陣とは、江戸時代のはじめ、参勤交代が行われるようになって、大名行列をしなから江戸と領国の間を往復する時、大名が泊まる宿のことを言います。この本陣に泊まりきれない家来たちは、脇本陣や旅籠に分かれて泊まりました。

甲州道中を利用したのは、信州の高島藩、高遠藩、飯田藩の大名と甲府勤番の役人です。

大名の宿であった本陣という建物は、神奈川県下では、東海道と甲州道中で計わせて26軒ありましたが、現在建物として残っているのは、この小原宿本陣1軒のみで、大変貴重な建物となっています。小原宿本陣は、清水家の建物が使われました。

江戸時代になって甲州街道の宿場が整えられました。この小原宿は、江戸から十五里二十一町余の宿で、小仏峠を前にして重要な宿場で、片継ぎの宿場(小仏宿から来た人や荷物と、与瀬宿を通り越して吉野宿まで継ぎ立てる。そのかわり江戸の方へは、与瀬宿から小原宿を通り越して小仏宿へ継ぎ立てる。)として特殊な継ぎ立てをしました。

旅籠は、7軒あり、一般の旅人のはかに、富士山や身延山にお詣りする講の人たちも多く泊まらせてました